

小学生向けワークショップを開催します

* 海岸で漂着物を探して標本箱を作ろう

とき 11月1日 10:00~
 ばしょ 鼓ヶ浦海岸 (鈴鹿市伝統産業会館集合)
 講師 舟橋憲治さん (鈴鹿子ども環境ネット)

フォトフレーム



* 探した漂着物でフォトフレームを作ろう

とき 11月29日 10:00~
 ばしょ 若松公民館
 講師 坂崎由佳さん (ナチュラル工房 にわとり屋)

参加費 いずれも無料

申し込みは鈴鹿市文化振興部文化課まで

電話 059-382-9031
 メール bunka@city.suzuka.lg.jp
 FAX 059-382-9071



標本箱

臨時開館と休館日のお知らせ

特別展開催期間中は、火曜日・第3水曜日も開館いたします。
 また、年末年始は、12/15から12/19までは館内燻蒸のため休館いたします。
 年末年始の休館は12/28から1/4までです。皆様のご来館をお待ちしております。



文化課では市内在住の75歳以上の方に、戦中・戦後の生活についてインタビューを行った内容を中心に「鈴鹿の記憶—戦中戦後の証言と資料—」を作成しました。
 1冊 2000円で販売しています。
 大黒屋光太夫記念館または文化課 (鈴鹿市役所 11階 119番窓口) でお買い求めください。
 発送をご希望の場合は、1冊の送料は360円です。詳しくはTel 059-382-9031 (文化課) まで。

鈴鹿市文化振興部文化課 大黒屋光太夫記念館

〒510-0224 鈴鹿市若松中一丁目1-8
 Tel・fax 059-385-3797(記念館)
 Tel 059-382-9031 (文化課)
 bunka@city.suzuka.lg.jp

Web サイトアドレス:
<http://www.edu.city.suzuka.mie.jp/kodayu>



2014年10月 | 鈴鹿市文化振興部文化課 | 大黒屋光太夫記念館 | 059-385-3797(記念館)

大黒屋光太夫



第21号



大光

(ダイ・コー) 第21号

第10回特別展 漂流・漂着ものがたり —海へ往く者 海から来る者—

大黒屋光太夫記念館は、平成17年11月に開館し、毎年秋に特別展を開催してまいりました。光太夫の業績を広く市内外に紹介するこの特別展は、今回で10回目を迎え、また新たな気持ちで開催いたします。

今回の特別展は、「漂流・漂着ものがたり—海へ往く者 海から来る者—」と題して、日本の湊を出帆し、漂流の末、異国の地へたどり着いた者たちとともに、異国から航海の途中で漂流し、日本へとたどり着いた者たちについても紹介いたします。

「漂流」は、四方を海に囲まれ、物流の主力を海運が担っていた日本にとって、古来より繰り返されてきた事象でした。船乗りたちは常に遭難の危険に身をさらされていました。遭難した船乗りは、多くの場合、不幸な最期を遂げますが、幸運にして異国の地を踏み、帰国する例も少なくありませんでした。

また、日本からの漂流を裏返すように、日本へ漂着した外国人の記録も各地に残されています。漂着した外国人との出会いは、当時の日本人にとって異文化との出会いでした。

これらの「漂流・漂着」の記録は、貴重な異国情報として様々な形で流布していきます。いわゆる「鎖国」をしていた江戸時代の日本で、「漂流・漂着」は、唯一、異国や異国人を実体験できる例外的な機会だったのです。

最後に、本展のために貴重な資料をご出品いただきましたご所蔵者、ならびにご協力を賜りました各位、ご支援を賜りました「船の科学館・海と船の博物館ネットワーク」に厚くお礼申し上げます。

日本へ来た漂流者

今回の特別展では、大黒屋光太夫のように日本から異国へ漂流した漂流者とともに、異国から日本に漂着した異国人についても取り上げます。いわゆる「鎖国」をしていた江戸時代の日本では、異国人を目にする機会は非常に限られていました。広い世界にはどのような人々が住んでいるのか、彼らの姿絵は、物見高い江戸時代の人々の関心を集めました。



波丹人漂流記(国立公文書館)

延宝8年(1680年)5月17日、バタン諸島の漁民23名が日向国(現：宮崎県)に漂着。病死した5名を除く18名は長崎に送られ、9月にオランダ船に便乗し、パタビアに送られ帰国しました。バタン人の風貌は肌の色が黒く、背が高く、裸で、木綿のフンドシをして、また芭蕉で編んだ蓑を着る者もいたということです。



大島筆記(国立公文書館)

江戸時代の沖縄は琉球という王国でした。琉球国は、薩摩藩に支配されると同時に、清(中国)には柵封関係を続けていました。薩摩藩は琉球を介して清国と密貿易を行うことで利益を得ていました。琉球船の漂着は、多くは薩摩と往来する船でした。



遊房筆語(国立公文書館)

男性の細長く後ろに垂らした髪型は弁髪といい、もとは満州人の習俗でしたが、清朝時代に中国全域で行われました。

特別展の展示解説を行います

10月25日(土)

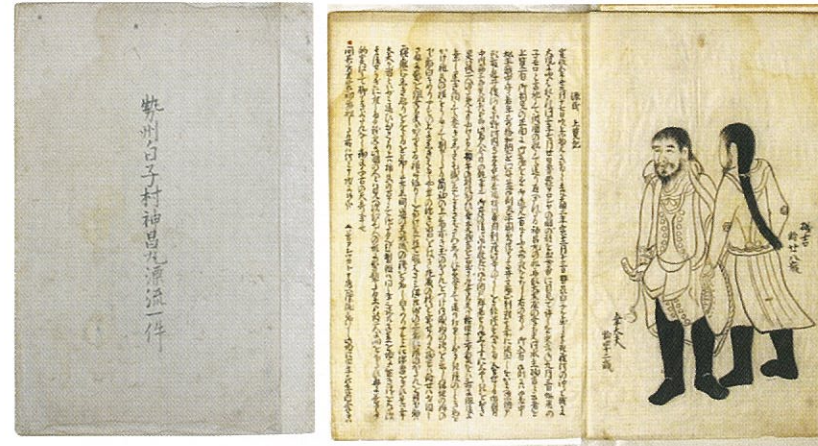
11月13日(木)

11月30日(日)

いずれも10:30から

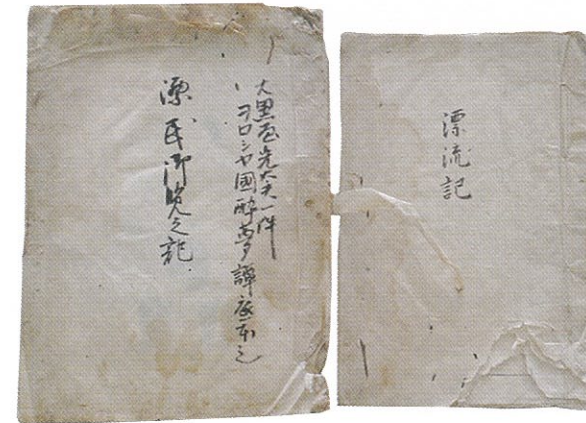
申込み不要/当日自由参加です。

「漂民御覧之記」の写本3点をご寄贈いただきました



埼玉県にお住まいの有住様より「勢州白子村神昌丸漂流一件」(12丁 半紙本)をご寄贈いただきました。

「漂民御覧之記」に漂流の顛末を記した口書等を付したもので、『叢書江戸文庫 漂流奇談集成』(加藤貢校訂 国書刊行会 1990)などに翻刻されているものと同じ系統の写本です。旗本有住家に伝来しました。幕末期の転写本と推定されます。



鈴鹿市の衣斐弘行様から「漂流記」(半紙本 21丁 嘉永6年写)と「漂民御覧之記」(美濃半本 20丁 文政8年写)をご寄贈いただきました。

「漂流記」は、漂民御覧之記にラクスマン信牌等の写しが付されています。

漂民御覧之記は、光太夫・磯吉が將軍・徳川家齊に引見されたときの問答を桂川甫周が私的にまとめたもので、様々な写本が多く遺されています。有住様ご寄贈の「勢州白子村神昌丸漂流一件」は、「漂民御覧之記」に光太夫の取調べ記録(口書)と光太夫・磯吉の処遇についての勘定奉行の書付、小市の所持品リストで構成されています。衣斐様ご寄贈の「漂流記」は、「漂民御覧之記」にラクスマンの信牌が付されています。このように写される過程で他の資料と合わせて編集され、さらにそれが転写を繰り返して、いくつかの系統が生まれました。

記念館では、今後も多くの「漂民御覧之記」を収集していきたいと思っております。

大黒屋光太夫・画幅の修復をしました

「大黒屋光太夫・磯吉画幅」は、平成20年に購入し、最近では教科書や参考書などにも掲載していただけるようになってきました。書籍や放送などへの利用申請も一番多い資料となりました。

購入当時から、本紙に経年による変色・劣化、横折れ・縦折れなどが多数見られたことと、緑青による彩色箇所に見られたことから、修復しました。

表装も新しくしました。第10回特別展で展示しておりますので、生まれかわった光太夫・磯吉の姿を是非御覧ください。

